平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

| ふりがな | ながさきけんりつゆうこうかんこうとうがっこう |
|---|---|
| 学校名 | 長崎県立猶興館高等学校 |


校 長 名：小野　俊文

所 在 地：長崎県平戸市岩の上町１４４３番地

電話番号：0950-22-3117


| 新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究 | |
|---|---|
| 研究対象教科等 | 保健体育 |

≪研究主題≫

**生徒の実態に応じた学習内容の明確化・体系化をはかり，生徒の意欲や充実感を向上させるための指導方法等の研究**

【研究の要点】

これまで、教員主導型中心の授業展開が多く，生徒の積極的な取組を引き出す授業の工夫が課題となっていた。生涯にわたる豊かなスポーツライフや健康の保持増進とを実現する資質と能力を育成するため，学習内容をより明確化・体系化し，年間指導計画や各単元の学習指導計画を見直し，「指導と評価」の工夫改善や，指導者間の学習内容における共通認識を深めることで，生徒の「意欲」や「充実感」を向上させることをねらいとした。

研究の重点として，(1)学習内容の体系化を図るための「年間指導計画」の検討・見直し。(2)学習内容の明確化を図るための「各単元の学習指導計画」の検討・見直し。(3)生徒の「スポーツ」及び「保健体育」に対する意識や考えを把握するためのアンケート実施・検討の3項目に取り組んだ。

＜重点項目(1)の具体的な取組と成果＞

①「年間指導計画」の検討・見直しとして，各領域の実施時期や学習内容の習熟を図れるような期間などを考慮した。

②「体育理論」に関して，学習内容を効果的に理解させ，運動領域への活用や，生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現にむける基盤育成の観点から，1年次を均等配置に，2年次を年度初めに，3年次を年度末に配置した。

③「体つくり運動」に関して，年度初めと，年度末に集中して実施することで，各運動領域への活用と，自分の体への気付きのまとめとし，生徒の自主的取組に発展していけるような配置にした。

④各領域選択の授業形態は，男女共修を原則とした。

以上の取組から，新学習指導要領の趣旨を踏まえ，「年間指導計画」の検討・見直しを実施することで，指導者間での本校における指導内容や指導方法の共通認識が深まり，生徒へ3年間の見通しを提示できるようになったことから，生徒も3年間の見通しを持って，計画的・主体的な取組が見られるようになった。

＜重点項目(2)の具体的な取組と成果＞

①重点研究領域・単元として，体育：「ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ型ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ」「ｺﾞｰﾙ型ｻｯｶｰ」「体育理論」と，保健：「現代社会と健康　イ健康の保持増進と疾病の予防」の「単元構造図」を作成した。

②体育授業において，毎時間のねらいを「単元構造図」をもとに生徒に明確に伝え，授業内でグループ協議の時間を多く設定したり，ワークシートを記入させたりして，より主体的に授業に取り組みやすくし，意欲の向上を図ることをねらいとした。

③指導と評価の内容を，選択授業間・指導者間で統一した。

④保健授業において，理解を深めるため，視覚的効果が必要な内容において，パワーポイントを積極的に活用した。また，教材として，たばこの模型を作成したり，身近な漫画の紙芝居を作成するなど，生徒の関心，意欲を高める授業を展開できるよう努力した。その他，グループ協議を多く取り入れ，知識を深めるとともに，知識を活用する学習活動に取り組んだ。

以上の取組から，「年間指導計画」をもとに，「単元構造図」を作成していくことで，指導内容と学習内容がより明確になり，指導者間の「評価規準」に関する共通理解と統一化が図られる。選択制授業毎の評価規準の相違もなくなり，生徒は個々の明確な目標を持って学習に主体的に取り組めるようになった。また，1授業時間内で評価する項目を精選し，1つか2つに絞り込み，より多くの評価機会を持つことが今後の課題であると考える。

＜重点項目(3)の具体的な取組と成果＞

①質問項目は評価規準の観点別に複数設定した。

②回答は，10段階とした。

④結果分析は，各項目別毎に学年・男女別の平均と分布を表し，年度比較を行った。

以上3項目の取組から，生徒は以前よりも，自らの学習内容や学習後の自らの姿を理解し，より主体的に学習に取り組む姿が見られるようになった。

## Ⅰ　研究指定校の概要

### １　学校・地域の特色及び実態

平戸市は，鎖国前中国やオランダなどとの国際貿易港であり，旧平戸藩（平戸松浦氏）の城下町として栄えていた。

本校は，長崎県北西部の平戸島に位置し，今年度１３０周年を迎え，平成15年度理数科を設置し，ＳＰＰ事業（文部科学省）に参加をしている。

生徒は明るく素直で，教育目標である「猶興精神（自立・自発）」のもと，授業や学校行事に取り組んでいる。

### ２　学校の概要（平成22年4月5日現在）

| 課程 | 学科 | １年 | | ２年 | | ３年 | | ４年 | | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 |
| 全日制 | 普通科 | 4 | 121 | 4 | 135 | 5 | 139 | | | 13 | 395 |
| | 理数科 | 1 | 40 | 1 | 38 | 1 | 39 | | | 3 | 117 |
| | 計 | 5 | 161 | 5 | 173 | 6 | 178 | | | | |
| 定時制 | | | | | | | | | | | |
| 計 | | 5 | 161 | 5 | 173 | 6 | 178 | | | 16 | 512 |

教員数　３８名（５名）

## Ⅱ　研究の内容及び成果等

### １　研究主題等

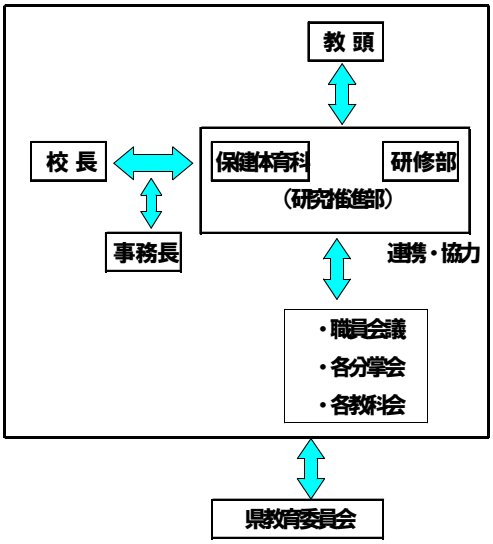
(1) 研究主題

**生徒の実態に応じた学習内容の明確化・体系化をはかり，生徒の意欲や充実感を向上させるための指導方法等の研究**

(2) 研究主題設定の理由

これまで，教員主導型中心の授業展開が多く，生徒の積極的な取組を引き出す授業の工夫が課題となっていた。しかし，生涯にわたる豊かなスポーツライフや健康の保持増進とを実現する資質と能力を育成するためには，生徒の実態に応じた学習内容の明確化・体系化を図り，個に応じて運動の特性に触れ，運動の楽しさを味わうとともに，運動の基礎的な知識や技能の習得はもとより，コミュニケーション能力や論理的な思考力を身につけ，自ら進んで計画的に運動を実践していく力を育成する必要があると考える。そこで，保健体育の学習指導において「年間指導計画」や「各単元の学習指導計画」及びその「指導」と「評価」の工夫改善に取り組むことで，生徒の学習活動をより深め，保健体育はもとより学校生活全般に対する「意欲」と「充実感」を向上させる事ができると考え，本主題を設定した。

(3) 取組体制




(4)　２年間の主な取組

| | |
|---|---|
| 平成21年度 | ○現状の把握と課題検討<br>○新学習指導要領の内容・趣旨についての研究<br>○研究の方向性について<br>○年間指導計画の見直し・改善<br>○教材研究・評価方法分析・アンケート実施<br>○各領域・単元指導計画の作成（特に下記を中心に）<br>体育：球技「ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ型ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ」・「ｺﾞｰﾙ型ｻｯｶｰ」<br>保健：現代社会と健康「健康の保持増進と疾病の予防」<br>○指導案・学習資料・評価資料作成<br>○教材研究・研究授業<br>○中間報告及び反省・問題点の検討・次年度へ向けて<br>○次年度に向けた年間指導計画及び各領域・単元指導計画の検討及び作成 |
| | |
| | |

| | |
|---|---|
| 平成22年度 | ○学習指導案検討・教材研究<br>○指導計画に基づく学習指導の実践と検証<br>○評価分析<br>○成果と課題についての検討，整理，報告書原稿作成<br>○学校訪問・研究授業<br>体育：球技「ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙ型ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ」・「体育理論」<br>保健：現代社会と健康「健康の保持増進と疾病の予防」<br>○アンケート実施<br>○反省及び今後の課題について協議<br>○成果・課題等の最終まとめ<br>○報告書（最終）の作成と提出 |

## ２　研究内容及び具体的な研究活動

(1)研究の重点１

学習内容の体系化を図るための「年間指導計画」の検討・見直し

①　具体的な取組

・「年間指導計画」において，各領域の実施時期や学習内容の習熟を図れるような期間を，生徒の実態や施設環境･教員数，気候や中学校との接続等を考慮した。
・「体育理論」に関して，学習内容を効果的に理解させ，運動領域への活用や，生涯にわたる豊かなスポーツライフへの実現に向ける基盤育成の観点から，1年次を均等配置に，2年次を年度初めに，3年次を年度末に配置した。
・「体つくり運動」に関して，年度初めと，年度末に集中して実施することで，各運動領域への活用と，自分の体への気付きのまとめとし，生徒の自主的取組に発展していけるような配置にした。
・領域選択の授業形態としては，男女共修を原則とした。
・2年次，3年次で選択できる領域に継続性を持たせることに配慮し，１領域（球技）の選択授業時間を長く設定した。

②　考察及び成果

・新学習指導要領の趣旨を踏まえ，「年間指導計画」の検討・見直しを実施することで，指導者間での本校における指導内容や指導方法の共通認識が深まり，生徒へ3年間の見通しを提示できるようになったことから，生徒も3年間の見通しを持って，計画的・主体的な取組が見られるようになった。
・「体育理論」の実施形態は，「保健」と同様に，クラス担当者を決めて実施した。評価方法については，小テストやワークシート及び観察などで実施したが，どの時期の成績に反映させるかなどは，各学校の実情に応じた柔軟な対応が必要であると考える。
・男女共修については，「武道」「ダンス」の実施においても特に問題なく実施できた。

③　課題

・施設環境，教員数，気候や中学校との接続等を考慮して領域選択を検討していくと，領域設定の選択肢の幅が限られる。
・「体育理論」の実施形態や実施時期，評価方法は，各学校の実情に合わせた柔軟な取扱いが必要であると考える。
・「体つくり運動」については，日常生活への活用に意識的に取り組める能力の育成が課題である。
・「武道」「球技」の選択の際に，人数の偏りが見られ，開講できないなどの問題が発生する可能性があり，今後の課題である。

(2)研究の重点２

学習内容の明確化を図るための「各単元の学習指導計画」の検討・見直し

①　具体的な取組

・重点研究領域（単元）とした，体育：「ベースボール型ソフトボール」「ゴール型サッカー」「体育理論」，保健：「現代社会と健康　イ　健康の保持増進と疾病の予防」における「単元計画構

造図」を作成した。

・「単元計画構造図」作成に当たっては，学習指導要領例示から，各学年で取り扱うべき内容を選別することと，取り扱う時間数を考慮した。

・各授業時間に指導する内容とポイント，評価する４観点（保健は３観点）の評価規準を明確にした。

・「体育」授業において，毎時間のねらいを「単元構造図」をもとに生徒に明確に伝え，授業内でグループ協議の時間を多く設定したり，ワークシートを記入させたりして，より主体的に授業に取り組みやすくし，意欲の向上を図ることをねらいとした。

・「体育」授業では，重点研究領域である，「ソフトボール」「サッカー」において，グラウンド横の防球ネットに，それぞれの競技で取り扱う内容のポイントやキーワードとなる暗黙知を，ラミネートしたプリントで簡潔にまとめ，授業中のグループでの話し合いの際に，活用できるように工夫した。（写真1）

**写真1　キーワードをまとめた，ラミネートの前でポイントを確認している様子**

・領域「体育理論」では，「１　スポーツの歴史，文化的特性や現代のスポーツの特徴　イ　スポーツの技術，戦術，ルールの変化」の授業において，クイズ形式でスポーツに関する様々なことが変化してきていることを理解させ，現代においてはテレビやインターネットなどのメディアの発達に，スポーツが影響を受けていることを学習した。理解を深める一つの例として，高校生に人気があるスポーツ漫画と競技人口の関係などを取り上げ，メディアとの関係をディスカッションさせた。（資料1）

**資料1　パワーポイント資料**

・「保健」授業では，重点研究領域，単元である「現代社会と健康　イ　健康の保持増進と疾病の予防」の「（イ）喫煙，飲酒と健康」の授業において，たばこの包装表示の理解を深めさせ，日本と海外の表示の違いを学習しやすくするために，パワーポイントやたばこの大きな模型を作成するなど，興味や関心を持って授業に取り組めるよう工夫した。（写真2）

**写真2　たばこの模型で包装表示を説明する様子**

・「（ウ）薬物乱用と健康」の授業においては，薬物の恐ろしさを身近な問題としてイメージしやすいように、紙芝居を教材として使用した。登場人物が知らないうちに薬物事件に巻き込まれ

ていくストーリーを紙芝居に手書きで作成し，問題点を生徒にディスカッションさせた。

・授業時には，指導と評価の内容を事前に指導者間で再確認し，生徒には学習プリントを毎時間記入させ，時間毎に学習内容，ねらい，次時の予定を簡潔に説明した。(資料2)

学んだことを活かすために！！

単元名(　　)No.　(　)年(　)組　(　)番　氏名(　)

★今日のキーワード★

★あなたが今後できる事、取り組みたい事★

保健ノートに貼付してください(^_^)v

**資料2「保健」学習プリント（B6判）**

②　考察及び成果

・指導内容と，学習内容がより明確になり，指導者間の「評価規準」に関する共通認識が深まるとともに学習指導の改善が図られた。

・生徒は，学習内容と学習後の目指すべき姿を理解することができるため，個々の目標を持って学習に主体的に取り組めるようになった。

・「体育」では，毎授業で「本時のねらい」を明確に説明し，学習プリントを記入させることにより，自己の学習状況を振り返り，集団及び自らの課題に気付き，主体的に目標を持って取り組めるようになった。

・学年及び選択領域毎に評価規準（運動の技能以外）を統一化することで，指導者間・選択種目間の評価方法の相違を解消することができた。

・「保健」の学習プリントでは，授業時に学んだ内容を「実生活にどう活用するか」を中心に記入させることで，知識を活用し，思考・判断を高める学習ができた。

・「保健」において，グループ協議や視覚的教材を多く用いることで，身近な問題として興味・関心を持って授業に臨む姿が見られるようになった。

③　課題

・学習プリントから読み取れる評価内容は，主に「知識･理解」と「思考･判断」であり，観察からは「運動の技能」「関心･意欲･態度」である。この４観点を毎時間全て評価することは困難なため，１授業時間内で評価する項目を精選し，１つか２つに絞り込み，より多くの評価機会を持てるようにすることが今後の課題である。

・「体育」及び「保健」での学習プリントの記載内容と活用方法の工夫改善。

(3)研究の重点３

生徒の「スポーツ」及び「保健体育」に対する意識や考えを把握するためのアンケートの実施・検討。

①　具体的な取組

・アンケート用紙の作成と実施。

・回答は，10段階とした。

・結果分析は，各項目別に学年平均を表し，年度で比較した。　（次項資料３）

②　考査及び成果

・生徒のスポーツや運動にに関する「意欲」や「充実感」の変容についての把握ができた。

③　課題

・質問項目の精選。

・結果分析方法の工夫と改善。

## ３　研究の成果と課題

「年間指導計画」や「単元構造図」の検討や見直しを重ね，授業に反映させることで，指導者の授業に対する共通認識を深めることができた。そのため，明確なねらいを持った授業展開を実施することに繋り，生徒の学びの姿勢の変化に直接反映されている。生徒は以前よりも，自らの学習内容や学習後の目指すべき姿を理解し，より主体的に学習に取り組む姿が見られるようになってきている。今後は，より一層，指導と評価の一体化の改善を図り，生徒の「意欲」･「充実感」の向上をめざす指導方法の工夫改善を行っていきたい。

（資料３）　　「体育」・「保健」の授業に関するアンケート　調査結果　平均

猶興館保健体育科

このアンケートは、文部科学省指定の教育課程研究で、皆さんのスポーツや「体育」及び「保健」の授業に対する意識や考えを調査するために実施するものです。各問いに関しては、現時点で「素直にそう思う」という自分の考えに近い箇所の番号を（１０～1）から選び［　　］に番号を記入してください。　(*^_^*)

| かなり思う | | 少し思う | | どちらでもない | | あまり思わない | | 全く思わない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １０ | ９ | ８ | ７ | ６ | ５ | ４ | ３ | ２ | １ |

＜体育編＞　　（全学年回答）

| | 全体平均 | 22 年度 | 23 年度 |
|---|---|---|---|
| １．スポーツを「行う」ことが好きである。 | → | 8.6 | 8.5 |
| ２．スポーツを「見る」ことが好きである。 | → | 8.1 | 8.2 |
| ３．スポーツの内容や情報に関して「調べる」ことが好きである。 | → | 6.0 | 6.1 |
| ４．卒業後も、一生何らかのスポーツに関わっていきたい。 | → | 7.2 | 7.4 |
| ５．得意な種目（スポーツ）をつくりたい。 | → | 8.5 | 8.5 |
| ６．一つの選択種目に、もっと長い期間取り組みたい。 | → | 7.4 | 7.8 |
| ７．体育の授業が好き（楽しみ）である。 | → | 8.2 | 8.3 |
| ８．各種目の、より高度な技能や知識を身につけたい。 | → | 7.7 | 7.8 |
| ９．体育の授業では、自分の役割（係・ポジション等）がある。 | → | 6.6 | 6.4 |
| 10．各種目を学ぶ上で、ルールやマナーを守ることは大切である。 | → | 9.2 | 9.1 |
| 11．活動をとおして、仲間と助け合ったり教えあったりすることは楽しい。 | → | 8.9 | 8.8 |
| 12．ゲーム中、仲間の発言や感情を尊重して、自己の考えを述べている。 | → | 7.5 | 7.4 |
| 13．運動を理解し、上達するために工夫（考えて）して取り組んでいる。 | → | 7.4 | 7.4 |
| 14．自己や仲間の安全を考えて授業に取り組んでいる。 | → | 8.0 | 8.1 |
| 15．体育の授業では、課題解決を通して充実感や達成感を味わう事ができる。 | → | 7.7 | 7.8 |
| 16．運動量・授業時間（１コマ）は丁度よい。 | → | 6.0 | 6.3 |

17．現在、体育授業で実施している種目【バレーボール・ソフトボール・サッカー・バスケットボール・陸上（競走）・卓球・バドミントン・柔道・ダンス・体つくり】以外で、チャレンジしたい種目・競技・運動は何かありますか。

（自由記述で回答）［　　］

＜保健編＞　　（１，２年のみ回答）

| | 全体平均 | 22 年度 | 23 年度 |
|---|---|---|---|
| １．保健の授業が好き（楽しみ）である。 | → | 5.5 | 6.3 |
| ２．保健の授業をとおして、健康についての知識・理解を深めたい。 | → | 6.7 | 7.0 |
| ３．保健で学習する内容は、健康に生きていく上で必要な知識である。 | → | 8.0 | 8.1 |
| ４．保健の学習内容の理解を深めるために、自分なりに工夫している。 | → | 6.3 | 6.5 |
| （ノート整理・予習復習の工夫など） | | | |
| ５．学習した内容を簡単に人に説明することができる。 | → | 5.2 | 5.5 |
| ６．保健の学習で身につけた知識や技術を、実生活に活用していきたい。 | → | 7.2 | 7.4 |
| ７．毎時間、授業内容について自分なりの意見・考えを持っている。 | → | 5.8 | 6.0 |
| ８．毎時間の進度及び頻度（週１時間）は丁度良い。 | → | 7.8 | 7.8 |
| ９．身近で起こっている、健康や安全に関する問題に興味がある。 | → | 6.4 | 6.7 |

（１・２・３）年　　性　別（男・女）　　部　活（運動部・文化部・その他）

平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

| 学校名（ふりがな） | 私立呉港高等学校（しりつごこうこうとうがっこう） |
|---|---|

**校 長 名**：**薄井　光二**

**所 在 地**：広島県呉市広大新開3丁目3番4号

**電話番号**：0823-71-9163

| **新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法等の工夫改善に関する研究** | |
|---|---|
| 研究対象教科等 | 保健体育 |

《研究主題》

生涯にわたる豊かなスポーツライフや健康の保持増進の実現に向けて，学習内容の確実な定着と生徒の学習意欲を引き出すための指導と評価の一体化を目指した実践的研究

## 【研究成果の要点】

平成21・22年教育課程研究指定事業を受け，「生涯にわたる豊かなスポーツライフや健康の保持推進」の実現に向けて，学習内容の確実な定着と生徒の学習意欲を引き出すための指導と評価の一体化を目指した実践的研究を進めてきた。柔道、体つくり運動、保健「現代社会と健康」を中心に研究領域指導と評価の一体化を具体化できるよう，授業における指導方法や評価規準の見直しと改善，さらには支援装置の開発や改良を中心に研究を行った。

柔道では、単元の構造図及び3年間の指導案等の作成を進めた。「体つくり運動」では、専門のトレーナーの協力を得てTTによる授業づくりを試行した。保健では、「思考・判断」を高める授業作りに心がけた。

新学習指導要領の趣旨が，実際に授業を通じて少しずつではあるが子ども達に伝わり，新しいアイデアが形になってきている。

## Ⅰ　研究指定校の概要

### １　学校・地域の特色及び実態

本校のある呉市は，広島県の西部に位置し文政元年（1818年）に武田宗左衛門が，山口県玖珂郡玖珂町欽明路峠に私塾を開設して以来193年を迎える，「敬愛・自立・剛健」を校訓とする普通科と工業科を併設する歴史と伝統のある男子校である。また，生徒は「建学の精神」や「校訓」のもとに，授業をはじめ学校行事やクラブ活動に真剣に取り組んでいる。

### ２　学校の概要（平成22年4月5日現在）

（高等学校の例）

| 課程 | 学科 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 |
| 全日制 | 普通科 | 3 | 53 | 3 | 72 | 3 | 79 | | | 9 | 204 |
| | 工業科 | 4 | 138 | 4 | 102 | 4 | 111 | | | 12 | 351 |
| | 計 | 7 | 191 | 7 | 174 | 7 | 190 | | | 21 | 555 |

教員数66名（3名）

○研究対象教科科目の開設状況

| 科目の開設状況 | |
|---|---|
| 体　育 | 武道：柔道<br>1学年：1年間（39時間）<br>2学年：1年間（39時間） |
| | 体つくり運動<br>1学年（9時間）<br>6月4週～9月2週<br>2学年（9時間）<br>6月4週～9月2週<br>3学年（9時間）<br>6月4週～9月2週 |
| 保　健 | 第1学年「現代社会と健康」<br>（ウ）精神の健康 |

## Ⅱ　研究の内容及び成果等

### １　研究主題等

（1）研究主題

生涯にわたる豊かなスポーツライフや健康の保持増進の実現に向けて，学習内容の確実な定着と生徒の学習意欲を引き出すための指導と評価の一体化を目指した実践的研究

(2)　研究主題設定の理由

本校では，建学の精神を踏まえ，よりよい授業づくりを目指した取り組みを行ってきた。しかしながら，私立学校では，公立学校に比べ閉鎖的になりがちなことから，新しい学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課程の実践的な研究を通して，その改善を図ることを目指した。

具体的には，保健体育科の3年間の指導計画を根本から見直し，「確かな学力」の育成に向けた「基礎的な知識・技能」，「思考力・表現力・ 判断力等」，「学習意欲」をバランス良く育む指導と評価の一体化を図ることで，保健体育科の究極的な目標である「明るく豊かで活力ある生活を育む態度」ができるものと考え研究主題を設定した。

(3) 取組体制

研究授業や校内での授業研究をビデオ撮影し，授業後に管理職と保健体育科で検証する。また，フィードバックシートを配布し記入後に他教科からの意見や助言も参考に今後の授業に生かす。

(4) 2年間の主な取組

| | |
|---|---|
| 平成21年度 | 3月：教育課程研究事業連絡協議会（東京）<br>5月：研究取り組みに本格的に着手（2月より）<br>5月：他校の体育授業参観（三重県三重高校）<br>6月：他校への柔道授業参観（広島国際学院高校）<br>6月：他校への訪問（日体荏原高校）体育祭等<br>9月：調査官の学校訪問（研究授業）<br>10月：２年目の学力把握中間報告会に参加（東京）<br>1月：愛知県立西春高校の研究授業に参加（愛知）<br>2月：教育課程研究事業研究協議会（東京） |
| 平成22年度 | 5月：教育課程研究事業連絡協議会（東京）<br>10月：調査官の学校訪問（研究授業）<br>10月：熊本市立鹿南中学校の研究授業に参加（熊本）<br>1月：教育課程研究事業研究協議会（東京） |

## ２　研究内容及び具体的な研究活動

(1)　体育

（領域：武道，単元名：柔道）

（１）研究の重点

1，指導方法の工夫と改善の取り組み。

2，評価方法の工夫と改善の取り組み。

（２）具体的な取組

1－①　入学年次では「相手の動きの変化に応じた基本動作から，基本となる技等を用いて攻防を展開することができるように，指導と教材の作成や工夫・改良をした。

**写真1：支援装置の例（新三角パネル）**

**写真2：支援装置の例（座例マシーン）**

例：①視聴覚機材の利用。（ＤＶＤや分解写真「ねらい」や「ポイント」の掲示等を使用）②支援装置等（の踏み込み位置や新座礼マシーン）③専門家に 技の指導方法やコツを聞く。④全授業の指導案を作成。

写真3：支援装置の例（ねらい・ポイントの掲示）

2－①　自己や仲間の課題に応じた運動を継続する意欲が向上すると期待される評価方法の工夫。

例：①授業記録表の改良。②見て分かる評価方法の実践。③発言の場を増加。④グループ学習の増加。

(3)考察及び成果と課題

1－①ＤＶＤや分解写真，「ねらい」や「ポイント」の掲示で効率よく正しい技術の伝達ができるようになった。

写真4：ＤＶＤ鑑賞の例（繰り返し学習）

1－②支援器具の作成・改良により授業やグループ学習における「意欲や関心」が高まり前向きな取り組み「態度」になったので技術の向上も著しかった。

写真5：グループ学習の例（4人組みでの学習）

1－③技の指導時の「声かけ法」を聞く。

1－④単元の，全体の見直しに伴い修正中。

2－①授業記録表を1年分にまとめたので，指導の浸透や生徒の理解度が見れるようになったが記入に差があることが課題。また，単元の全体の見直しに伴い修正中。

2－②帯の色を白からブルー，ブルーから紺色に変えることにより生徒全体の意欲は向上したが，評価規準との整合性が課題である。

写真6：帯の色を変える例（ブルーと紺）

2－③④生徒の発言や説明等の場を与えることにより，「知識や思考力」を高める取り組みで，授業に対する積極性が向上した。

**写真7：発言の場を与える例（挙手して発言）**

（２） 体育

（領域：体つくり運動，単元名：体力を高める運動）

(1) 研究の重点

１　**指導方法の工夫と改善の取り組み。**

２，**評価方法の工夫と改善の取り組み。**

(2) 具体的な取組

１．　研究開始当初は，用具もほとんどなく，指導方法も教師主導型の授業展開だった。自分なりに試行錯誤し体力が向上することを目的とした様々な運動を導入し取り組んだが，思うように展開ができず，本来のねらいからも随分かけ離れたてしまい，失敗の連続ばかりであった。他の研究指定校の研究授業などにも参観させていただきながら取り組んだ。２年目となっても方針が定まらず，試行錯誤が続いた。専門家（スポーツトレーナー）に相談できる機会を得たので，助言をいただきながら研究の方向性が定まった。

その結果主な２年目の取り組みは，運動の計画と実践の例や例示をもとに，運動の行い方や組み合わせ方，卒業後にも継続して実践できるように指導方法の工夫をした。

例：①新体力テストから自己の体力を分析し，健康に生活するための体力，運動を行うための体力の実践と，それぞれのねらいに応じた運動の実践が主体的に行えるように取り組んだ。

②グループ学習の導入。③用具の充実。

**写真１：グループ学習での発表の例**

**写真２：用具の例**

**写真３：用具の例（手作り）**

④専門書・指導書による理論や指導方

法の研究や専門家とＴＴによる助言，及び授業展開。

⑤準備運動で音楽を流しリラックスするような雰囲気を作る工夫。

２．　評価規準や学習ノートによる評価方法の工夫。

例：①評価規準の見直し。②学習ノートの作成。

(3) 考察及び成果と課題

１－①　新体力テストの結果によって体力の特徴が理解でき，種目のねらいを考察することで課題を明確にし主体的に取り組めるようになった。

１－②　リーダーが自然に育成され主体的な活動が見られるようになった。

１－③　ミニハードル，ラダー，メディシンボール，バランスボールの導入により，興味を持ち積極的に活動できるようになった。

**写真４：生徒の活動例**

１－④　指導方法やアドバイスの仕方など生徒への声かけが変化した。

１－⑤　他の領域の準備運動，補強運動においても，各自，またはグループでの取り組みが主体的になった。

２－①　適切なものか検討・修正中。

２－②　記入の仕方に課題。学習ノートは改善に向け研究継続

（２）　保健

（領域：保健，単元名：精神の健康）

(1) 研究の重点

１，指導方法の改善と取組

２，評価方法の工夫と改善の取組

(2)具体的な取組

１－①　教科書中心の授業展開ではなく，パワーポイントやワークシートを使っての指導を工夫したり，各グループを作りグループ学習や発表させるなどの教材を改良した。

例：①視聴覚教室の利用。(パワーポイントを使っての掲示)②グループ学習の導入。③ワークシートの活用。

２－①ワークシートによる評価方法の工夫

例：学習ワークシートの作成

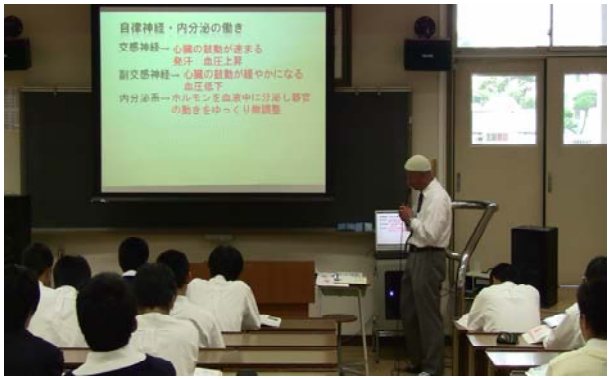



**写真１：パワーポイントを使っての授業の例**

**写真２：グループ学習での例**

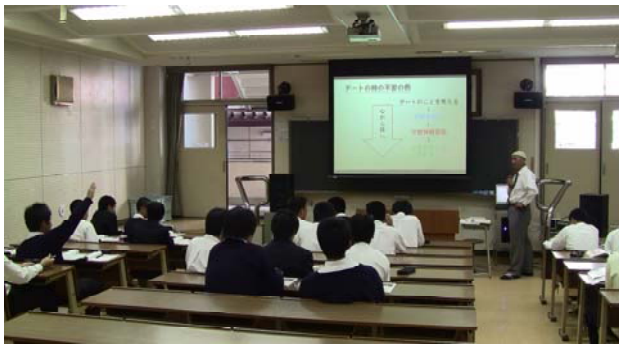


**写真３：グループ学習での発表の例**

(3) 考察及び成果と課題

１－①パワーポイントを使った授業展開をすることによって生徒の理解度があがってきたようである。

１－②グループ学習をすることにより，生徒からの発言が多くなった。

１－③グループ学習でのワークシートを使用することによって生徒同士の意見交換ができるようになった。

２－①ワークシートを活用することにより授業に対する取組が積極的になった。

## ３　研究の成果と課題

①単元構造図の見直しに伴い，指導案と評価規準表を作成。（体育：柔道）

②武道を生涯にわたり，継続して楽しむ意欲を育てる授業づくり。（体育：柔道）

③教科書中心の授業展開ではなく，グループ学習での授業づくり。（保健）

④心身相関とストレスの単元の区別化（保健）